

令和7年度 政務活動報告会

会派 公明党

丹波篠山市議会

紹介 【会派公明党】

【会派議員紹介】

隅田 雅春 ・ 岡 圭子

- ▶ 会派公明党は「**平和・福祉・教育**」の3つを柱に政策提案をしています。市民の皆さまのお役に立てるよう努めて参ります。

調査活動①「子育て教育」について

～通知表を廃止した小学校～西新宿小学校

通知表を廃止した新宿区立西新宿小学校を視察しました。令和8年1月9日

《視察理由》

子ども一人の成長をどう支えるかという視点から視察先を決めました。
この学校は、「通知表を廃止した学校」として新聞などでも紹介
されていました。

《学校周辺の特徴》

東京23区のほぼ中央に位置し人口は約35万人（R7.1.1）都庁に近
く企業本社・ホテルも多くその一方でマンションや住宅も多い。
単身世帯、共働き世帯が多く外国籍住民の割合が23区内でも上位。
子どもたちの家庭環境や背景が非常に多様な地域。（生徒数328名 R6.5.1）



～通知表を廃止した小学校～特徴 調査活動①

《西新宿小学校の特徴》

地域と連携した体験型学習や職業体験など多様な活動を展開、保護者や職員、生徒みんなで学べる場。

《通知表を廃止した経緯》

2023年度（令和5年）から通知表を完全廃止。

単元テスト・宿題も廃止。

都心部の学校長の挑戦として評価された。

これは突然の決定ではなく、それ以前から評価の在り方の見直し、子どもとの対話を重視するなどの取り組みを段階的に積み重ねた結果である。



～通知表を廃止した小学校～長井校長 調査活動①

《長井満敏校長の紹介》

東京都江戸川区で教員としてスタート。
教育委員会の事務局職員として長らく教育現場と
行政の橋渡しを担う。その後副校長、校長を経験し2020年、西新宿小学校長に。

《通知表を廃止した経緯と目的》

校長として3年目、教室にいる子どもが
楽しそうじゃない、原因は学校にあるのでは？
学校を変えるべきではないかと考えるようになった。
最初の取り組みは通知表と単元テスト（小テスト）
（小学2年生以上）の廃止。その後宿題も見直し、
夏休みや冬休みの宿題は廃止。画一的な枠組みを
見直し 自由な学びを重視していった。



～通知表を廃止した小学校～効果検証 調査活動①

自己肯定感・安心感の向上 「評価されるため」ではなく「学ぶ」姿勢に。
成績による序列意識が薄れ、失敗を恐れず挑戦する子どもが増えた。

《教員への効果》

通知表作成に要していた膨大な事務時間が減り、子供と向き合う時間が増えた。
学力低下にも繋がらなかった。保護者懇談会を年1回から2回に増やし学校の様子も丁寧に伝えることができている。単元テストを廃止した代わりに、CDTテストを導入した。（点数ではなく考え方を見るテスト、年1回、1教科2000円～3000円、4教科で業者に依頼。費用は市が負担）このテストで個々の考える力がわかる。

子どもを評価するテストではなく子どもを伸ばすためのテストと言える。
この結果から、理解度が分かり、学び直しにもつながる。

～通知表を廃止した小学校～結論 調査活動①

《考察》

通知表や点数だけにとらわれない評価のあり方は、子ども一人ひとりの成長を丁寧に捉え、安心して学べる環境づくりにつながると考える。丹波篠山市の強みである地域との近さを生かし、学校・家庭・地域が連携した学びの在り方を今後も検討していくことが重要である。

会派公明党としても、子どもの成長過程を大切にする評価のあり方は今後の教育を考える上で重要と考え、引き続き検討を進めて参ります。



調活査動②「多様性を認め合う社会作り」

～日本女性会議に学ぶ～

日本女性会議（研修会）に参加しました。 令和7年10月3日～4日 岡のみ参加

《日本女性会議とは》

男女共同参画を理念から行動に変えることを目的とする日本最大級の会議。

《視察理由》

ますます多様化する地域社会の中で、生きづらさ、声を上げにくいなどの課題が残っている。多様性を尊重する社会の在り方を学ぶことができると考え。

《研修内容》

- ・働き方➡ 出産・子育て・介護の時期も性別に関係なく働き続ける環境づくり
- ・健康・医療➡男女で異なる体や心の課題への理解と支援の必要性
- ・意識の問題➡本人も気づかない無意識の思い込み、固定的役割意識への気づき

～日本女性会議に学ぶ～

調査活動②

有識者による講演 有森裕子さん「心身の健康とそのケア」（トーク）
アン ミカさん「ポジティブ脳で幸せに過ごすために」（講演）
中高生主催の会議。など分かりやすい題材で分科会の個別課題へ誘導する
仕組み。橿原市の歴史の寸劇。



～日本女性会議に学ぶ～

調査活動②

《考察》

今回の開催地、橿原市は「日本国始まりの地」と言われ、日本初の国家形成が始まった地であり、女性天皇が国づくりを担った歴史を持つ地域です。

その歴史から今回の大会を「女性の視点・多様性の視点」その地からジェンダー平等と多様性の社会を発信する意義は大きいと心に響いた。

丹波篠山市にも地域文化を守り育ててきた人々の積み重ねがある。歴史や伝統を継承し続けることが未来の土台づくりになると思います。

今回の研修を通じて、誰もが自分らしく暮らせるまちづくりを目指し、市民の皆様のために行動していきたいと思えます。

本市でも男女共同参画社会に向けた講演会や活動を活発にされていますので推進員の皆様とともに啓発活動もして参ります。

▶ 政務活動費合計 83、686円

令和7年橿原市に掛かる経費

- ・参加費 5、000円
- ・ガソリン代金 2、276円
- ・有料道路通行料金 3、570円
- ・宿泊費 10、000円

計 20、846円

令和8年新宿区に掛かる経費

- ・新幹線代金 58、480円
- ・バス代金 460円
- ・手土産代 3、900円

計 62、840円